

熊

МЕДВЕДЬ

笑劇 一幕

青空文庫

— N・N・ソロフツォーフに捧げる

人物

ポポーワ（エレーナ・イワーノヴナ） 両頬にエクボのある若い未亡人、女地主
 スミルノーフ（グリゴリー・ステパーノヴィチ） 中年の地主
 ルカー ポポーワの従僕、老人

舞台は、ポポーワの地主屋敷の客間。

一

ポポーワ（大喪の服をきて、一葉の肖像写真から眼をはなさない）とルカー

ルカー 困りますなあ、奥さま。……それじゃ御自分の身を、じりじり滅ぼしておいでになるだけですよ。小間使も、おさんども、イチゴを採りに行きましたし、およそ息のあるものは、結構みんな楽しんでおりますよ。現にあの小猫でさえ、慰みごとはちゃんとか心得ていて、庭をほつきまわっては、小鳥をとらまえていますのに、あなた様は日がな一んち、まるで尼寺にはいったみたいにお部屋にこもりきりで、どだい気散じというものを、なさらない。全く、ほんとでございますよ！ なにせ、もうこの一年というもの、うちから一あしも、おでましにならないなんて！……

ポポーワ ああ、二度とふたたび、外へなんか出ないよ。……出てどうするのさ？ わたしの一生は、もう終ったんだよ。あの人はお墓のなかに臥ねている。わたしは、この四つの壁のなかに、自分を埋めている。……ふたりとも、死んでしまったのさ。

ルカー ほれ、またそれだ！ ほんとに、もう聞きたくもない。ニコライ・ミハイロヴィなチまが亡くなつたのは、そうなる因縁ごとで、つまり神さまの思召しでございますよ。――天国に安らわせたまえ。……あなた様も、これまでお歎きになりや、もう沢山で、世間体というものも、少しはお考えにならなけりやあ。一生がい泣きとおしたり、喪服を

着どおしたりで、暮らせるものじゃござんせん。……わたしも昔、ばあさんに死なれま
 したっけが……なあに、もう！　ひと月ほどは、歎きも泣きもしましたけれど、それで
 まあ沢山でして、一生がい泣いて暮らすほど、有難いばあ様でもありませんでしたよ。
 （ため息をつく）ほんとに、近所のつきあいも、すっかり忘れてしまいなすった。……
 こつちからもお出かけがないし、向う様を呼ぼうともなさらない。こう申しちや失礼なんで
 すが、わしらの暮らしは、とんと蜘蛛みたようで、——日の目もろくろく拝めませんで
 すよ。一張羅のお仕著せだつて、鼠ねずこ公に食われる始末で。……それで、立派なお人が
 いなさらのならまだしも、この郡内と来たら、殿がたがキラ星のようにお揃いじゃご
 ざんせんか。……ルイブロヴォにや、聯隊が駐屯しとりまして、その士官さんたちとい
 や——色とりどりのボンボンみたようで、見ても見飽きることじゃねえ！　その営舎じ
 や、金曜といや、かならず舞踏会があるし、それに、なにせ毎にち、軍楽隊がぶかぶか
 やつておりますよ。……やれまあ、奥さま！　そのお若さで、そのご器量で、血にミル
 クをまぜたみたいな血色で、——いつそ面白おかしく、お暮らしになつたらどうですか
 ね。……きれいな盛りは、いつまで続くもんでもござんせん！　これで十年もしたら、い
 くら孔雀みたいにめかしたてて、士官さんたちの目をくらまそうとなすつたところで、

はや手おくれでござんすよ。

ポポーワ（きつぱりと）いいから、もう二度とわたしに、そんな話ほしないでおくれ！

お前だつて知ってるじやないか——ニコライ・ミハイロヴィチが亡くなつて以来、この世はわたしにとつて、一文の値うちもなくなつたんだよ。お前には、わたしが生きてるように見えるだろうけど、ただそう見えるだけなのさ！ わたしはお墓にはいるその日まで、この喪服を脱がない、世間へも出ないつて、心に誓つたんだよ。……いいかい？ わたしがどんなにあの人を愛しているか、あの子の幽霊に見せてやりたい。……そりや、わたしも知ってるし、お前に今さら匿したつて始まらないことだけれど、あの子はちよいちよい、わたしを邪慳に扱つたり、むごい仕打ちをしたり、おまけに……その不実なまねまでしたわ。でもね、わたしはお墓にはいるまで操を立てとおして、わたしがちゃんと愛のまことを心得ている女だという証拠を、あの子に見せてやるのさ。やがてあの世で再会したら、わたしがあの子の死ぬ前と、ちつとも変らないでいることを、あの子は思い知るだろうよ。……

ルカー まあ、そんなことを仰しやるひまに、ひとつお庭を散歩でもなさるか、いつそトビーかヴェリカン「ともに馬の名」を馬車につなげと言いつけて、ご近所へ訪問におで

かけになつては……

ポポーワ ああ！ （泣く）

ルカー 奥さま！……奥さまつたら！……どうなさいました？ びつくらするじゃござい
ませんか！

ポポーワ あの人は、トビーをあんなに可愛がつていた！ いつもあの馬に乗って、コル
チャーギンやヴラーソフのところへ、出かけてらしたものだっけ。馬がお上手だったわ
ねえ！ こう力いっぱい手綱を引きしめてらっしゃる時の姿の、優美なことといったら
ぬ、おまえ、覚えてるか？ トビー、ああトビー！ 今日はいかに、カラス麦を五百
ぬ、おまけにやるように言つとくれ。

ルカー かしこまりました！

けたたましい呼鈴の音。

ポポーワ （身ぶるいして）だれだろう？ わたしはどなたにもお目にかかりませんで、

そう言うんだよ！

ルカー へ、かしこまりました！ （退場）

二

ポポーワ（ひとり）

ポポーワ（写真を見ながら）いまに見せたげますよ、ニコラス、わたしがどんなに愛のまことを心得た女か、どんなに人の罪を赦せる女か、ということをね。……わたしの愛は、この哀れな心臓の鼓動がとまった時はじめて、わたしと一しよに消えるのよ。（笑つて、涙ごえで）でも、あなたは恥かしくないこと？ わたしはこんなにいるまで操を立てとおすつもり淑な奥さんで、じぶんにピンと錠をおろして、お墓へはいるまで操を立てとおすつもりなのに、あなたつたら……よくも恥かしくないことねえ、おでぶちゃん？ 浮気をした、り、もんちやくを持ちあげたり、なん週間もうちを明けたり……

三

ポポーワとルカー

ルカー（登場、おどおどして）奥さま、だれだか、たずねてまいりましたよ。お目にか

かりたいって……

ポポーワ でもお前は、こう言ったんだらうね？——主人が亡くなって以来、わたしはどなたにもお目にかかりませんって。

ルカー 申しました。だけど、てんから耳にもかけねえで、大事な用件だ、とこうなんで。ポポーワ わたしは、お目に、か・か・り・ま・せん！

ルカー それは、よく申しましたが……何しろ、森の主みたいなどえらい男でして、大声でがなり立てて、ずかずかあがりこんで来ますんで……もう、食堂まで来ております……

…

ポポーワ (いらだつて) じやいい、お通し。……なんてまあ無作法な！

ルカー退場。

ポポーワ ほんとに困った連中だこと！ わたしに一体なんの用があるんだらう？ せつかく人が静かにしているのを、なんだって邪魔するんだらう？ (ため息をつく) だめ、だめ、こうなつたらもう、ほんとに尼寺へでも行かなくちや…… (考えこむ) そう、尼

寺へ……

四

ポポーワ、ルカー、スミルノーフ

スミルノーフ（入りながら、ルカーに）でくのぼうめ、つべこべご託をならべやがる。

……頓馬野郎！（ポポーワを見て、威容をつくり）これは奥さま、初めてお目にかかります。退職陸軍砲兵中尉、地主のグリゴリー・ステパーノヴィチ・スミルノーフであります！ すこぶる重要な用件のため、ご静閑をわずらわしますが……

ポポーワ（手をあたえずに）どういうご用向きでしょう？

スミルノーフ 亡くなられた御主人と、おつきあいを願っておった者ですが、その御主人に、約束手形二枚で合計千二百ルーブリ、御用だてしてあります。じつは明^{みょう}日^{にち}が、農業銀行へ利子を払いこむ日になつとりますので、ひとつ奥さん、その金を今日^{きょう}のうちに御皆済ねがいたいので。

ポポーワ 千二百……。でも、どういうわけで宅は、そのお金を拝借したのでしょうか？

スミルノーフ わたしから、カラス麦を買われたのです。

ポポーワ（ため息をつきながら、ルカーに）いいかい、ルカー、お前わすれないでねー

トビーにカラス麦を五百匁^め、おまけにやるように言うんだよ。(ルカー退場。スミルノーフに)それは、宅が拝借したものでしたら、もちろんわたくし、お支払い申しますわ。でも、あいにくと今日は、手もとに持ち合せがございません。明後日^{みょうごにち}になれば、うちの支配人が町から戻って参りますから、さっそく申しつけて、然るべくお支払いをいたさせますが、さしあたって御希望に副いかねます。……それに今日は、宅が亡くなりましてちようど七カ月に当りますので、わたくしどうも、金銭のことには一切かからわりたくない、そんな気分でおりますものですから。

スミルノーフ　ところが、今のわたしの気分は、もし明日^{あした}、利子が払えんとなったら、しやつちよこ立ちで夜逃げをせずばなるまいと、そういうわけなんです。わたしの領地が、差押えをくうんですぞ！

ポポーワ　明後日^{みょうごにち}になれば、拝借のお金をお返しいたします。

スミルノーフ　こつちが金のいるのは、明後日じやない、今日なんです。

ポポーワ　今日はお支払い致しかねますから、あしからず。

スミルノーフ　ところがこつちは、明後日まで待つわけにや行かんの。

ポポーワ　いま手もとにないものを、どうしろと仰しやるんです！

スミルノーフ　すると、払えんと言われるのですか？

ポポーワ　致し方ございません……

スミルノーフ　ふむ……それがあなたなの、ぎりぎりのお返事ですか？

ポポーワ　はい、ぎりぎりの。

スミルノーフ　ぎりぎりですか？　断然そうですか？

ポポーワ　ええ、断然。

スミルノーフ　ありがたい仕合せだ。ご恩は決して忘れません。（肩をすくめる）これでもまだこのおれに、冷静にしろって言うんだからなあ！　さつきも途中で、税務署の男に逢ったら、「なんだってあんたは、いつもぶりぶりしてるんです、ええスミルノーフさん？」って聞きやがる。冗談じゃない、これがぶりぶりせずにはいられるものか？　金につまんで、にっちもさっちも行かんですからね。……そもそもわたしが家を出たのは、きのうのことで、それも朝まだ薄ぐらいうちから飛びだして、貸しのある連中を片っぱしから訪ねて　　つたんですが、そのうちせめて一人でもが払うことか！　野良犬みたいにへとへとになって、泊った先がどこかといえは、いやはや、——ユダヤ人の居酒屋の、酒だるのそばでしたよ。……あげくの果てに、うちから七十キロもあるここまで

たどり着いて、こんどこそ貰えるぞと当てにしていれば、とんだ「気分」とやらの御馳走だ！　これが腹を立てずにいられますか？

ポポーワ　わたくし、はつきり申しあげたはずですわ、——支配人が町からもどり次第、お返しいたしますと。

スマルノーフ　わたしは支配人を訪ねて来たのじゃない、あなたをですぞ！　そんな支配人なんか、こう申しちやなんだが、くそくらえだ！

ポポーワ　失礼でございますが、わたくし、そういう妙な言葉づかいや、そういう口調に、馴染んでおりません。この上お話をうけたまわるのは、ご免をこうむります。（足ばやに退場）

五

スマルノーフ（ひとり）

スマルノーフ　ええ、どうだい！　気分だつてさ。……七カ月まえ主人が亡くなりましたので、だとさ！　ところでこつちは、利子を払わにやならんのか、それとも払わんでい

いのかい？　ひとつ伺いますが、利子は払うのでしようか、それとも払わんで宜しいのでしょうか？　やれ主人が亡くなったの、やれ気分がどうのって、あの手この手でおいでなさる……支配人がどこぞお出かけですってか。へん、どうぞ御勝手に。だが、こっちは一体どうしろと仰しやるんです？　軽気球にでも乗っかって、借金とりから逃げだすんですかい？　それとも、めくらめつぼう駄けだして、脳天、壁でぶち割るんですかい？　グルーズヂエフのところへ行けば、留守とくる。ヤロシエーヴィチは雲がくれしちまうし、クーリツインとは、生きるか死ぬの大喧嘩をやらかして、すんでのことで奴を、窓からおっぱり出すところだった。マズートフは擬似コレラだし、ここの細君は、気分とおいでなさる。悪党ども、だれひとりとして払いやがらん！　というのもみんな、このおれが奴らを甘やかしすぎた罰だ。おれが愚図で、いくじなしで、女の腐ったみたいだからだ！　だいたいおれは、やつらの感情を尊重しすぎるんだ！　ようし、待つとれよ！　いまに思い知らせてやるからな！　おれは断じて、ふぎけた真似はゆるさんぞ、業つくばりめが！　よし、ここにこのままいて、あの女が払わんうちは、こうして頑張っていてやる！　ブルルツ！……今日という今日は、おれは怒おこったぞ、ほんとに怒ったぞ！　あんまり怒ったもんで、膝がしらがくがくして、息がつまりそうだわい。……

ふうつ、こりやいかん、氣持まで悪くなってきた！ （どなる）おい、誰かおらんか！

六

スマイルノーフ、ルカー

ルカー（登場）何ご用で？

スマイルノーフ クワス「無色透明の清涼飲料」か水を持ってこい！

ルカー退場。

スマイルノーフ いやはや、なんたる論^{ロジック}理だ！ 人が金につまんで、につちもさつちも行

かず、あわや首つつりの瀬戸ぎわだというのに、あの女ときたら、なんのこつたい、金
 銭のことにかかずらわりたくごいませんので、払わないとぬかしやがる！……まさに

典型的な女の論理——コルセット論理だ！ そいだからおれは、昔から女と話すのは苦
 手だったし、今だつて苦手なんだ。おれにとつちや、いつそ火薬の樽にでも腰かけてる
 方が、女と話すよりや気が楽だよ。ブルルツ！……ぞくぞく総毛だつて来たわい——よ
 くもおれを、ここまで怒らせやがったな、阿魔つちよめ！ おれは、ああした詩的な存

在を、遠くからちよいと見ただけでも、とたんに腹わたが煮えくり返って、ふくらはぎが痙攣してくるんだ。助けてくれえ——と、わめきたくなるんだ。

七

スマイルノーフ、ルカー

ルカー（登場して、水を差し出す）奥様はお加減がわるくて、お相手ができねえそうで。
スマイルノーフ 出て失せろ！

ルカー退場。

スマイルノーフ お加減がわるくて、お相手が！ いいよ、お相手なんか。……おれは金をよこさんうちは、ここにこうして坐りこんでいてやる。そつちが一週間病気なら、こつちも一週間いてやる。……一年病気なら、こつちも一年だ。……とにかく貰うものは貰いますぞ、奥さん！ 喪服だの、頬つぺたのエクボだのにや、こつちはびくともしませんや。……そのエクボが、どんなものかっことは、百も承知だからね！（窓からどなる）おいセミヨン、馬をはずしておけ！ すぐは立たんからな！ おれは当分こ

にいるんだ！ 馬舎うまやへ行つて、うちの馬にカラス麦をやるようにそう言え！ ええこの野郎、また左の副え馬が、脚を手綱にからましてるじゃないか！ （口まねをして）なあに平気ですが。……平気か平気でないか——あとで思い知らせてやるぞ！ （窓からはなれる）どだい成つとらん……なんともやりきれん暑さだし、だれひとり金は払わんし、ゆうべはろくに寐ねとらんし、その上あの、喪服のお曳きずりの気分ときやがる。……頭が痛いぞ。……ヴォートカでもやつてみるか？ よおし、飲んでやれ。（どなる）こら、誰かおらんか！

ルカー （登場）何ご用で？

スマルノーフ ヴォートカを一杯もつて来い！

ルカー退場。

スマルノーフ ふうっ！ （腰をおろし、じろじろ自分の身を眺めまわす）いやはや、いざまじやないか！ 埃はかぶり放題、靴は泥だらけ、顔も洗ってなければ、髪はもじやもじや、チョツキにや藁わらがくつついてる。……あの奥さん、ひよつとすると、おれを強盗とまちがえたかも知れんぞ。（あくびをする）こんななりで客間へ通るのは、いささか失礼というもんだが、いやなに構わん……おれは何も客に来たんじゃない、借金と

りだ。借金とりの服装は、べつにきまりがあるわけじゃない。……

ルカー（登場、ヴォートカを差し出す）旦那、あなたも相当、気ままでいらっしやるね
……

スミルノーフ（ぶりぶりして）なんだと？

ルカー いえなに……わしは……ただその……

スミルノーフ 相手をだれと心得とるか？ 黙れ！

ルカー（傍白）ええこの、森の主め、とうとうこの家うちに、とつ憑きおったぞ。……悪魔
のさしがねに相違ねえ……

ルカー退場。

スミルノーフ ああ、腹が立ってならん！ 腹のなかなかが煮えくり返って、いつそ世界じゆ

う、こつぱみじんにしてやりたいほどだ。……ええ、胸むねまで悪くなつて来たぞ。……

（どなる）おい、こらつ！

ポポーワ（伏目になって登場）あの、まことに申しかねますが、こうして一人ぐらしをしておりますものですから、もう長いこと人様の声を聞きなれませんので、殊に大きなお声は、辛抱ができません。どうぞお願いですから、わたくしの平和をみださなさいで下さいまし！

スマルノーフ 金さえ払ってくださりや、出て行きますよ。

ポポーワ わたくし、ロシヤ語でちゃんと申し上げました、——ただいま持ち合せがございませんから、みょうじにち明後日までお待ちくださいましと。

スマルノーフ ところがわたしも、やはりロシヤ語で、こう申しあげましたよ、——金のいるのは明後日じゃなくて、今日ですとね。もしも今日、払ってくださいらんと、明日はあす首をつらなけりやなんのです。

ポポーワ でも、手もとにお金がない以上、どうにも仕様がなないじゃございませんか？

妙なお話ですこと！

スマルノーフ じゃ、すぐは払えんというのですね？ そうですね？

ポポーワ 致し方ございません。……

スマルノーフ ではわたしは、このままここに坐りこんで、金が出るまで待ちます。……

(腰かける) あさつては、お払いくださるんですね? それは結構! あさつてまで、こうして坐らしてもらいましょう。そうれ、このとおり……(おどりがあがつて) いや、ひとつ伺おうじやありませんか、——一体わたしは、あす利子を払わにやならんのか、払わんでもいいのか?……それともあんたは、冗談だと思つてるんですか?

ポポーワ どうぞお願いですから、そんな大きな声をなさらないで! ここは馬舎うまやではございせん!

スミルノーフ 馬舎のことなんか、聞いちやいません。聞いているのは、——あすわたしは利子を払わにやならんのか、払わんでもいいのか?

ポポーワ あなたは婦人にたいする作法を、ご存じなさすぎます。

スミルノーフ とんでもない、婦人にたいする作法は、ちやんと心得とります!

ポポーワ いいえ、ご存じありません! あなたは無教育な、不作法なかたです! 教養のある人なら、婦人に向つてそんな口の利きかたはしません!

スミルノーフ いや、こいつは驚いた! じゃ、どんな口の利きかたをしろうというんです? フランス語でも使うんですかい? (憎々しげに、わざとシューシューいわせて)

マダーム、ジエー・ヴー・プリー「奥さん、お願い致しますが」……お金をお払いくだ

さらんとは、わたくしにとつて、なんたる仕合せでしょう。……あいや、パルドン「おゆるし下さい」、とんだ御心配をかけまして！ 今日のはじつに好い天気ですなあ！ その喪服も、まことによくお似合いで！（すり足をする）

ポポーワ くだらない、失礼だわ。

スミルノーフ（口まねして）くだらない、失礼だわ！ そりやわたしは、婦人にたいする作法を知りませんともさ！ ねえ奥さん、こう見えてもわたしは、あなたが御覧になった雀のかずよか、ずっと沢山おんなを見て来ましたよ！ 女のことから、ピストルで決闘すること三度、女を棄てること十二人、そして九人の女に棄てられたんですぞ！

さよう！ ひと頃はこれでも、阿呆あほうな真似をしたり、べたべた言い寄ったり、にちやにちや口説いたり、おべんちやらを並べたり、手すり足すりの珍芸まで演じたものです。

……惚おぼれもした、煩悶ぼんもんもした、月にむかつて歎なげきもした、がっかりもした、ぼおつともしたし、冷さめもした。……いざ惚おぼれたとなつたら猛烈で、氣ちがい沙汰で、めちやくちやで、作法もやり方もあつたものじゃない。いい氣になつて、カササギよろしく婦人解放論をまくし立てたり、まあそんな恋愛感情におぼれているうちに、身代しんしよはんぶんがた、すつちまいましたよ。だが今となつちや——まっぴら御免だ！ もうその手にや乗

りませんや！　もう沢山！　黒いひとみ、情熱的な眼、まっかな唇、頬つぺたのエクボ、月の光、ささやき、ひそやかな息づかい——それを引つくるめてやるといわれたって、ええ奥さん、わたしは銅銭一枚だつて出しませんね！　目の前にいる人はさておくとして、一たい女というものは老若を問わず、みんなお高くとまつて、気どりやで、金棒ひきで、いじわるで、骨のずいまで嘘つきで、虚栄のかたまりで、こせこせして、不人情で、おまけに鼻もちならんロジックを振りまわすすな。それから、ほら、ここんとこと来た日にや（自分のひたいを叩いて）ご免をこうむつてぎつくばらんに申せばすな、スカートをはいた哲学者よか、屋根の雀のほうが、よつぽど上手ですよ！　その詩的な生き物というやつを、どれでもいい、ちよいと眺めてみれば、なるほど極上のモスリンだ、エーテルだ、天女の生まれ変りだ、無量無辺の法悦だ。ところが、いぎ心のなかを覗いてみりや、——平凡きわまるワニザメ《クロコデイル》にすぎん！（椅子の背をつかむ。椅子はめりめりとこわれる）なかんずく、一ばん鼻もちならんのは、そのワニザメ《クロコデイル》が、どうした勘ちがい知らんが、恋愛感情こそは、わが最高傑作だ、特権だ、専売特許だ——と思ひこんでることですよ！　なあにわたしは、悪魔にさらわれてもかまわん、ほらあの釘に逆さに吊るされたって、文句はありませんよ——

—もし万一、女がちつちやなムク犬のほかの誰かを、愛することができたらね!……女
の愛なんて、要するにただ、めそめそ泣いたり、すすりあげたりするだけなんです!

男のほうは苦労したり、わが身を犠牲にしたりしているのに、女の愛と来たら、ただも
う、長い裳裾をひきずったり、もつとぎゅつと男の鼻先へしがみつこうと、精だすぐら
いが関の山ですよ。あなたは不幸にして女だから、わが身に引きくらべて、女の性質は
よくご存じでしょう。さあ一つ、良心にかけて言つてご覧なさい——あなたはこれまで
に、誠実で、貞節で、心變りのしそうな女を、見たことがありますか? あるもん
ですか! 貞節で心變りのしない女があるとしたら、そりや婆さんか、出来そこないぐ
らいのものさ! 心變りのしない女を捜すぐらいなら、いつそ角のはえた猫か、白い羽
のカラスでも捜したほうが、早手まわしですよ!

ポポーワ では伺いますが、貞節で心變りのしないのは、いったい誰だと仰しやるんです
の? まさか男ではありませんまいね?

スマイルノーフ そりや無論、男ですとも!

ポポーワ 男ですつて! (意地の悪い笑声) 貞節で、心變りのしないのが男ですつて!

おやまあ、なんて珍しいはなしでしょう! (躍起になつて) よくもまあ、そんなこ

とが言えたものねえ？ 男が貞節で、心変りがしないですって！ こうなった以上、はつきり申し上げますけど、わたしが過去現在を通じて知っている男の人のなかで、一ばん立派な人は、亡くなったうちの主人でした。……わたしは、若い思索的な女性でなければできないような愛し方で、あの人を熱烈に、一心こめて愛しました。自分の若さも幸福も、生命も、自分の財産も、みんなあの人に捧げました。よる昼あの人を呼吸して、まるで邪教徒みたいに、あの人を偶像とあがめていたのに、それが……それが——まあどうでしょう？ その男のなかの一ばん立派な人が、破廉恥きわまるやり口で、わたしをだまし通しだったんですわ！ あの子の死んだあとで、恋文が机の引出し一ぱい見つかったばかりか、生きているうちだって——ああ、思い出してもぞっとする——あの子は何週間もうちを明けたり、わたしの目の前でよその女を追いまわしたり、女をこしらえたり、わたしのお金をパツパと使ったり、わたしの感情をもてあそんだりしたんです。……それでもやつぱり、わたしはあの人を愛して、貞節をまもっていました。……それどころか、あの子が死んだ今でも、わたしは相変らず貞節で、心はもとのままですわ。わたしはこの四つの壁のなかに、自分を永久に埋めてしまったので、死ぬまで決して、この喪服はぬぎませんわ……

スミルノーフ（小馬鹿にしたような笑い）喪服か！……いやどうも、一体このわたしを、何者と思つてらつしやるのかな？ いかにもわたしは知りませんともさ——あなたがなぜそんな、仮面舞踏会よろしくの黒装束をして、四つの壁のなかに自分を埋めてしまつたのか、なんてことはね！ そりやそのはずさ！ 何しろ、すぐく神秘的で詩的ですからね！ この屋敷のそばを、どこかの士官候補生か、それとも薄っぺらな詩人先生でも通りかかつたら、窓を見あげて、こう考えるでしょうな、——「ここに神秘的なタマラ《じよおうさま》が、住んでいる、夫を愛するあまり、四つの壁のなかにわが身を埋めてしまった女王さまが」とね。その手は先刻承知でさあ！

ポポーワ（カツとして）なんですつて？ よくもわたしに向つて、そんなことが仰しやれるのね？

スミルノーフ わが身を生きながら埋めてしまった人が、やっぱりお白粉しろいだけは忘れなかつたつてね！

ポポーワ まあ失礼な、よくもそんなことが、わたしの前で！

スミルノーフ お静かに願いましうか、わたしはお抱えの支配人じゃございませんからね！ 白いものは白いと、言わせていただきたくいですな。わたしは女じゃないもんで、

どうも腹にしまっておけない癖がありましたね！ そんな大声は、ご勘弁ねがいたいも
んで！

ポポーワ 大声を立ててるのは、わたしじゃなくて、あなたじゃありませんか！ あなた
こそ、いい加減にしてください！

スマルノーフ 金を払ってもらえさえすりや、即刻退散しますよ。

ポポーワ だれがお金なんか出すもんですか！

スマルノーフ いいや、出してもらいます。

ポポーワ こうなりや意地にだつて、一銭だつて出すものですか！ そろそろお帰りにな
つたらいかが？

スマルノーフ 不幸にしてわたしは、あなたの夫でもなければ、いいなすけでもない。で
すからどうぞ、痴話げんかは御免こうむりたいもので。（腰をおろす）あんまり好きじ
やないんです。

ポポーワ （忿怒に息をはずませながら）また坐つたのね？

スマルノーフ 坐りました。

ポポーワ 後生だから、出て行つて！

スミルノーフ お金をください……（傍白）ああ腹が立つ！ 腹が立つ！

ポポーワ わたし、恥しらずとは話したくもありません！ とつとつ出て行ってください

！ （間）行かないんですか？ ええ？

スミルノーフ 行きません。

ポポーワ ほんとですか？

スミルノーフ ほんとです！

ポポーワ じゃ、よろしい！ （呼鈴を鳴らす）

九

今までのふたり、それにルカー

ポポーワ ルカー、このかたをお見送りなさい！

ルカー （スミルノーフに歩み寄る）旦那、言われたら出て行くものですよ！ 何もそう

……

スミルノーフ （おどりがあがる）黙れ！ 誰にむかって、そんな口を利くんだ？ 小間ぎ

れに刻んで、サラダにしちまうぞ！

ルカー (胸をおさえて) 大変だ！……桑原桑原！……(肘かけ椅子に倒れる) ああ苦し
い、胸が悪い！ 息がとまった！

ポポーワ ダーシヤはどこなの？ ダーシヤ！ (叫ぶ) ダーシヤあ！ ペラゲーヤ！

ダーシヤあ！ (呼鈴を鳴らす)

ルカー やれやれ！ みんな苺とりに行きましたんで。……うちにや、誰ひとりおりませ
んわい。……ああ、苦しい！ 水を！

ポポーワ さつさと出てってください！

スマイルノーフ もう少し丁寧に願えんものですか？

ポポーワ (両の拳をにぎり、地だんだを踏みながら) このどん百姓！ がさつな熊！

成り上がり！ ずく入道！

スマイルノーフ なんだと？ なんと言っただんです？

ポポーワ あなたは熊だ、ずく入道だと言いました！

スマイルノーフ (つめ寄りながら) 失礼ですが、ぜんたいどんな権利があつて、わたしを

侮辱なさるんです？

ポポーワ ええ、侮辱しますとも……それがどうしまして？ わたしが怖がるだけでも、お
 思いですの？

スミルノーフ あなたは、自分が詩的な存在であるから、いくら人を侮辱したって無事で
 済む権利があると、高をくくつてるんですな？ そうですね？ よし、決闘だ！

ルカー さあ事だ！……桑原桑原！……み、水を！

スミルノーフ ピストルだ！

ポポーワ そんな頑丈な握りこぶしだの、牡牛みたいなノドつぶしだので、わたしがびく
 びくするだけでもお思いなの？ ええ？ まあなんて、がさつな成りあがり者だろう！

スミルノーフ 決闘だ！ わたしは、なんぴとたりとも、侮辱をゆるすわけには行かん。

よしんば相手が女だろうと、「か弱き者よ」だろうと、容赦はせん！

ポポーワ （どなり勝とうと懸命に）熊！ 熊！ 熊！

スミルノーフ さあこれでいよいよ、侮辱に報復するのは男子だけの神聖な義務だなんて
 いう、くだらん偏見をかなぐり捨てるときが来たぞ！ 男女同権なら同権でよろしい、勝
 手にしやがれた！ さあ決闘ですぞ！

ポポーワ やろうと仰しやるのね？ ええ、いいわ！

スミルノーフ 今すぐですぞ！

ポポーワ ええ、今すぐ！ ちょうど主人の残していったピストルが二挺あるわ。……いま取つて来ますからね……（いそぎ足で行きかけ、また引き返す）その銅びかりのしたおでこへ、ずどんと一発ぶちこんだら、さぞせいせいするでしょうよ！ この人でなし！
（退場）

スミルノーフ あの女、ひよつ子みたいにぶち殺してやる！ おれは鼻たれ小僧じゃないぞ、センチメンタルな青二才じゃないぞ。「か弱き者よ」なんてものは、おれの眼中にやないんだ！

ルカー 旦那、後生でございます！……（ひざまずく）どうかこの老いぼれを不憫と思つて、ここを出ていってくださいまし！ 死ぬほどおどかしなすつた上に、またピストルだなんて！

スミルノーフ（耳もかさずに）さあ決闘だ、これでこそ男女同権だ、婦人解放だ！ これれで両性が平等になるんだ！ おれは堂々たる主義にもとずいて、あいつをぶち殺してやる！ しかし、一体なんという女だ？（口真似をする）「この人でなし……その銅びかりのしたおでこへ、ずどんと一発……」まったく、なんて女だ？ まっ赤になって、

眼をぎらぎらさせてさ……。りっぱに挑戦を受けやがったぞ！ 正直なはなし、あんな女を見るのは生まれて初めてだ。……

ルカー 旦那、出てつてくださいまし！ ご恩は一生わすれませんから！

スミルノーフ あれこそ、女だ！ あんなら、おれにもわかる！ 正真正銘の女だ！ 煮えきらない、めそめそしたのと違って、火の玉だ、火薬だ、烽火^{のろし}だ！ 殺すのが惜しいくらいだ！

ルカー （泣く）旦那……お願いです、出てつてくださいまし！

スミルノーフ おれは断然あの女が気に入った！ 断然だぞ！ 頬つぺたにエクボがあるうがなかるうが、とにかく気に入った！ 借金なんか棒引きにしてやってもいいくらいだ……腹の虫まで、おさまつちまいやがった。……驚嘆すべき女だ！

十

今までのふたり、それにポポーワ

ポポーワ （ピストルを二挺もつて登場）さ、これがそのピストルです。……でも、決闘

をはじめめる前に、どうして撃つものか教えていたただかなくちや。……わたし生まれてから、ピストルなんか一度も持ったことがないんです。

ルカー ああ神さま、お慈悲です、お助けを。……ちよつくら行って、庭男と馭者をさがしてこよう。……一体どこから、こんな災難が降つて来たものやら……（退場）

スマルノーフ （ピストルをあらためながら）ええと、ピストルにもいろいろ種類がありましてね……決闘専用の、雷管のついたモーチマー式もあります。だがお宅のこれは、スミス・ウエツソン製のレヴオルヴァーで、たまは後装式、エクストラクター抽筒子つきの三連発

です。……いや、りっぱなピストルだ！ こういうのになると、一対すくなくも九十ル―ブリはしますな。……さてと、ピストルはまずこう持つて……（傍白）あの眼、あの眼！ 焼夷弾みたいな女だ！

ポポーワ こうですの？

スマルノーフ そ、そうです。……然るのち、げきてつ撃鉄をあげて……それ、こうして狙いをつける。……頭を、もちつとうしろへ引く！……その手を適当にのばす。……そう、よろしい。……次に、それこの指で、こいつをおさえる——これだけのことです。……ただ要領としては、あせらず、ゆつくり狙いをつけること。……手がふるえんように気を

つけること。

ポポーワ わかりました。……部屋のなかじや決闘に不便ですから、庭へ出ましょう。

スマイルノーフ 出ましょう。ただ前もって言っておきますが、わたしは空へ向けてうちま
すよ。

ポポーワ この上まだそんなことを！ なぜです？

スマイルノーフ なぜって……つまりその……。いやなに、こつちの話です！

ポポーワ 怖気がついたのね？ そうでしょう？ へへ、へえーだ！ 逃げようだったって

駄目ですよ！ おとなしく、わたしについてらっしゃい！ そのおでこに穴を明けない

うちは、あたしは気が済まない……そのおでこ、見てもぞつとするわ！ ほんとに、こ

わくなって？

スマイルノーフ ええ、こわくなりました。

ポポーワ うそばつかり！ なぜ決闘がしたくなくなつたんです？

スマイルノーフ なぜって……それはつまり……あなたが気に入つたからです。

ポポーワ （意地のわるい笑い）この人の気に入つたって！ わたしがこの人の気に入つ

たなんて、よくも言えたもんだわ！（ドアを指さして）どうぞ、お引きとりになつて。

スマイルノーフ（黙つてピストルを置き、帽子「ヒサシのついた」を手にとつて行きかける。ドアのそばで立ちどまり、半分間ばかり二人は無言で顔を見あつている。やがて男は、もじもじしながらポポーワの方へ歩み寄りつつ言う）じつはですね……。まだあなたは、怒つてるんですか？……そりやわたしだつて、かんかんに憤慨しちやいますかね、しかし、そこがその……さあ、なんと言つたらいいかな。……。つまりですね——ねえ、そうじゃありませんか——この種の事がらというものは、ひつきようするにその……（いきなり大声で）ええつ面倒だ、あんたが気に入つたからつて、それがわたしの罪ですか？（椅子の背をつかむ。椅子はめりめりとこわれる）畜生、なんてこのうちの家具はもういんだ！ わたしは、あんたが気に入つたんです！ ええ、わかりますか？ わたしは……ほとんど恋しちまつたんですぞ！

ポポーワ　そこを、どいてください、——わたし、あなたが大嫌いです！

スマイルノーフ　いやどうも、なんて女だ！ 生まれてこのかた、こんなものにお目にかつたことは一ぺんもないぞ！ やられた！ 絶体絶命だ！ きれいに鼠捕りにとかかつちまつた！

ポポーワ　どいてください、さもないと撃ちますよ！

スミルノーフ さあ、お撃ちなさい！ その素晴らしい眼で見つめられながら、そのちっちゃなビロードみたいな手の握るピストルで撃たれて死んだら、どんなに仕合せだから——とてもあんたにはわかりません。……ああ、気がちがいそうだ！ よく考えて、今すぐ決めてください——だって一旦わたしがここを出て行ったら、二度とわれわれは会えないんですぞ！ さあ、お決めなさい。……わたしは貴族です、紳士です、年収は一万からあります……撃てといわれれば、ほうり上げた銅貨にだって当ててみせます……とびきりの馬だって持っています。……妻になつてくれませんか？

ポポーワ (激昂のあまり、ピストルを振りまわす) 決闘です！ さあ行きましょう！

スミルノーフ おれは気がちがった。……なんにもわからん…… (どなる) 誰かおらんか、水だ！

ポポーワ (叫ぶ) 決闘場へ！

スミルノーフ 気がちがったぞ、惚れちまつたぞ、小僧っこみたいに、腑抜けみたいにな！ (女の片手をつかむ。女は痛さに悲鳴をあげる) わたしは、あなたを愛します！

(ひざまずく) こんな恋は、したことはありません！ 十二人の女を棄てた、九人の女に棄てられた、しかしそのうちの一人だって、これほど愛したことはありません。……

レモンみたいに、シロツプみたいに、わたしはとろとろになっちまった——もう駄目です……こうして阿呆みたいに膝をついて、手をさしのべています。……恥辱だ、恥さらしだ！ 五年のあいだ女に惚れずに来た。そう誓いを立てたんです。ところが不意に、首つたけになっちまった——馬車の梶棒が、ひとの車の馭者台へ突っこんだみたいだね！ あなたのお手を求めます。否いなですか、応おこですか？ いやなんですかね？ そんならいい！（立ちあがって、足早にドアの方へ行く）

ポポーワ お待ちになって……

スミルノーフ （たちどまる）ええ？

ポポーワ なんでもありません、お行きになって……。でも、ちよつと待って。……いいえ、行つてください、行つて！ あなたなんか大嫌いです！ けれどちよつと……。行かないで！ ああ、わたしがどんなに怒っているか、どんなに憤慨しているか、それがおわかりになったらねえ！（ピストルをテーブルへ投げだして）こんなもの持つていたら、指が腫れちまつたわ。……（腹だちまぎれにハンカチを引裂く）何をポカンと立ってるんです？ さっさと出てらっしゃい！

スミルノーフ さようなら。

ポポーワ ええ、ええ、出てらっしゃい！……（叫ぶ）どこへいらっしゃるの？ お待ちなさい。……いいえ、やっぱり出ていって。ああ、腹が立つ！ そばへ寄らないで、そばへ寄らないで！

スマイルノーフ（女に近寄りながら）こっちは、自分に腹が立ってならん！ まるで中学生みたいに恋しちまって、膝までつくとは何ごとだ。……背すじがぞくぞく寒くなるわい。……（荒々しく）わたしはあなたを愛します、か！ なるほど、まったく好い時に、あなたに恋したもんだ！ あすは利子を払わにやららん、草刈りもはじまっている、そこへもつて来て、あなたという人が……（女の胸を抱く）我ながら、こればかりは断じて赦せん……

ポポーワ どいてください！ その手をはなして！ わたしあなたが……だい嫌いです！
さあ決闘！（長い接吻）

十一

今までのふたり、それに斧をもったルカー、熊手をもった庭男、乾草用の大熊手を

もった馭者、棒ぐいをもった作男たち

ルカー (接吻している二人を見て) あれまあ! (間)

ポポーワ (伏眼になつて) ルカー、おまえ馬舎うまやへ行つてね、今日はトビーにカラス麦を

—ひとつぶ粒もやらないように、言つて来ておくれ。

—幕—

青空文庫情報

底本：「チエーホフ全集 一」 中央公論社

1960（昭和35）年3月15日初版発行

1980（昭和55）年6月20日再訂再版発行

入力：米田

校正：阿部哲也

2011年1月29日作成

2012年2月21日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

熊

МЕДВЕДЬ

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

著者 笑劇 一幕

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>